

懐かしの DTM ソフト紹介

(新型コロナ下の巣ごもり生活のための情報提供版)

2020 年 9 月 14 日：起筆、2020 年 9 月 22 日：公開、2020 年 9 月 26 日：最終更新

作成：岩崎純一、編集：岩崎純一学術研究所



目次

- ◆ 概要
- ◆ Cubase の 8.5 以前のバージョン（ヤマハ、Steinberg）
- ◆ Sample Tank 2（IK Multimedia）
- ◆ Miroslav Philharmonik（IK Multimedia）
- ◆ Quantum Leap RA（EastWest）
- ◆ Garritan Personal Orchestra (GPO) 2（Garritan、現 MakeMusic 傘下）
- ◆ Garritan Stradivari Solo Violin（Garritan）
- ◆ Finale の古いバージョン（MakeMusic）

◆ 概要

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自粛生活、巣ごもり時間が増える中、久々に DTM（デスクトップ・ミュージック）を楽しもうと、機材やソフトを家の奥から取り出す音楽愛好家が増えているようです。

また、私が文芸・文学の教員として（文芸学科に）勤務する日本大学芸術学部の音楽学科の教員や学生、私の知り合いの音楽家の方々などは、オンラインでの音楽の講義やオンライン合奏・合唱の必要性から、新たに DTM、DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）ソフトを学ぶ必要に迫られ、四苦八苦するケースが出ているようです。

このようなケースは、日芸の音楽学科のように、元より DTM、DAW の世界に敏感であるどころか、商業音楽やタレント・アイドル系音楽の世界での職を狙う学生が多い大学よりも、私の知り合いのいる東京芸大の音楽学部や武蔵野音大（日芸のご近所）など、クラシックの生演奏や生合唱を中心に学んできた教員や学生に生じているのは当然のことです。

私の音楽活動も、元は 4 歳からのピアノに始まるもので、DTM もクラシック、オーケストラの理論や民族音楽理論を基盤にしていますので、それがどのような悩みか、一通り理解しているつもりではあります。

そんな中、技術的な面で、「Windows のソフトなのに Windows 10 の環境で使えない」という嘆きをよく目にするようになりました。

その主な原因として考えられるのは、OS や CPU のビット数との不整合です。通常、32bit 用のソフトは、64bit パソコン（OS、CPU）に無理矢理入れても、しばしば動きますが、DTM ソフトは極めて複雑で重い処理を行うため、32bit 用に開発された DTM ソフトは、64bit の OS や CPU では通常の方法では動きません。また、64bit 用の DAW 環境では、基本的に 32bit 用のサンプラーソフトやソフト音源などは動きません。ならばそこで、32bit の DAW を入れ直したところで、今度はその DAW が 64bit のパソコン上では簡単に落ちます。（強制終了したり、録音・再生中にフリーズしたり、そもそも起動しなかったりします。）

現在、特にクラシック系のサンプリング音源などは、インストールに最低でも数百 GB～1TB の HDD や SSD の空きを必要とする時代に入っており、これらこそが、64bit の OS や CPU 上で、しかも 16GB や 32GB のメモリ上で（以下のリンク先のようなパソコンで）動かすことを想定されたソフトです。そのパソコンに昔の 32bit のソフトを入れても、逆に動作しません。

以下のリンク先では、内蔵 HDD を外付け HDD に改造する例をご紹介しますが、最近のクラシック系サンプリング音源では、このような HDD 丸々一つ分を一つの音源に充てるといった策が必要になります。

↓ パソコン・HDD 改造の例

<https://iwasakijunichi.net/2/1/0/7/7-4.pdf>

メモリの観点から言えば、32bit の DTM ソフトは、4GB（32bit パソコンの使用メモリ上限値）を超えるメモリを積んでいる最近のパソコンで動かしても意味がないということであり、無理矢理入れることができて、何ら動きが速くならないどころか、ほとんどの場合で遅くなります。

ここでは、私の経験上、32bitOS、32bitCPU でしか使えないことが判明しているソフトで、私が愛用していた主なものをご紹介します。

なお、Windows 環境ではなく、Linux 環境で使用してきたソフトについては、以下のリンク先をご参照下さい。

※ ご参考リンク

『岩崎純一全集』第七巻「序説、総記（七）」システム関連全般

<https://iwasakijunichi.net/2/1/0/7/7.pdf>

岩崎純一総合アーカイブ（IJCA）システム変遷表

<https://iwasakijunichi.net/2/1/0/7/7-1.pdf>

岩崎純一学術研究所（IJAI）アーカイブ・システム室

<https://iwasakijunichi.net/2/1/0/7/7-2.pdf>

HDD の交換作業マニュアル

<https://iwasakijunichi.net/2/1/0/7/7-3.pdf>

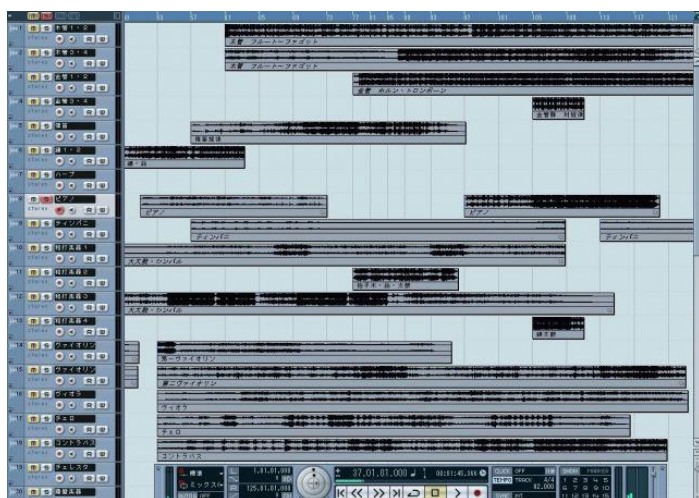
個人レベルでできる「コンパクト」で「持続可能な」テレワークやオンライン授業用の機材構成やパソコン改造・自作の試みの一例

（新型コロナ下の巣ごもり生活のための情報提供版）

<https://iwasakijunichi.net/2/1/0/7/7-4.pdf>

◆ Cubase の 8.5 以前のバージョン（ヤマハ、Steinberg）

写真・画像の SX2.01 以降のほぼ全てのバージョンを使用してきました。公式には 8.5 が 32bit 対応の最終版です。



写真・画像は Cubase 4。最新の 10.5 に連なる現 Cubase シリーズの最初のバージョンと言えます。SX 使用当時は、ヤマハによる Steinberg 買収は想定外でしたが、4 以降、日本語サポートが充実していきます。

日本のメーカーの傘下に入った利便性から、Cubase は日本の DAW ソフトのシェアで第 1 位となっています。私も 2020 年時点で 10.5 を愛用しています。



『岩崎純一全集』第七巻「序説、総記（七）」別添資料

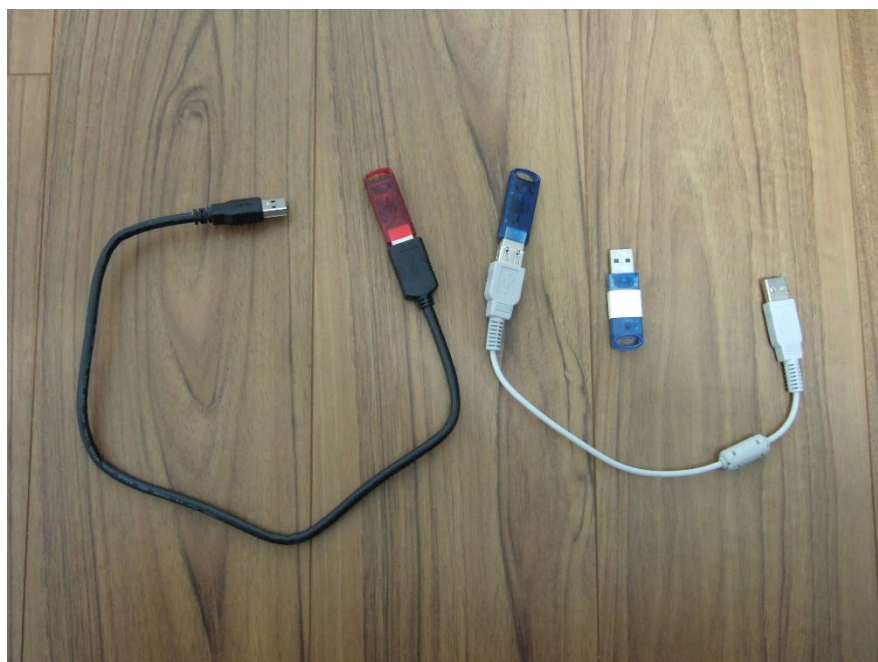


ところで、Cubase のライセンスを格納している USB-eLicenser (Steinberg Key) など、いわゆる USB ドングルが壊れたという話をよく聞きます。ハード面での故障としては、まず、頻繁な着脱に伴う割れや折れによる故障が多いようです。あるいは、パソコン本体に挿したままのユーザーも多いでしょうが、挿してあることを忘れて、手や物をぶついたり本体移動時にどこかにぶついたりして衝撃を与えてしまい、割れや折れを生じるケースが多いようです。

しかし、ソフト面での故障ならともかく、ハード面での機械的な故障は、以下のように延長ケーブルを使うことで、極めて長期に亘り回避することができます。頻繁に着脱するユーザーは、ケーブルの方を着脱すればよいですし、挿したままを好むユーザーは、誤って衝撃を与えても、ケーブルの方が壊れるか、ほとんどの場合、ケーブルの弾力で何の衝撃も起きないで済みます。

右の青いドングル 2 つが Steinberg Key で、ケーブルにつないである方は、何と Cubase 4 時代から現在も使用しているものです。ライセンス認証のみに USB3.0 の転送速度など必要ありませんから、この時代のものでも、壊れなければずっと使えます。ケーブル無しの方は Cubase 2 のものです。左の赤いドングルは、後述する IK Multimedia のキーで、Miroslav Philharmonik のライセンスが入っています。

ケーブルを介したライセンスの使用法は規約違反ではありませんので、もし認証できない場合は、ケーブル自体やケーブルとの整合性に問題があります。USB ハブを介した場合も、認証できないことがあります。こちらは各メーカーが元から推奨していない使用法ですので、避けるべきでしょう。



◆ Sample Tank 2 (IK Multimedia)

64bit の OS や DAW ソフト上で通常の方法では使えなくなったソフトの代表格。どうしても Sample Tank の音が欲しい人は、大人しく後継のバージョンを導入するのが得策です。



画像左が Sample Tank 2。



◆ Miroslav Philharmonik (IK Multimedia)

アタックが弱い、ほぼリバーブ無しでも壮大な響きを演出できたオーケストラ音源。これも 64bit に特化した DAW では、通常の方法では動きません。後継バージョンが出ています。



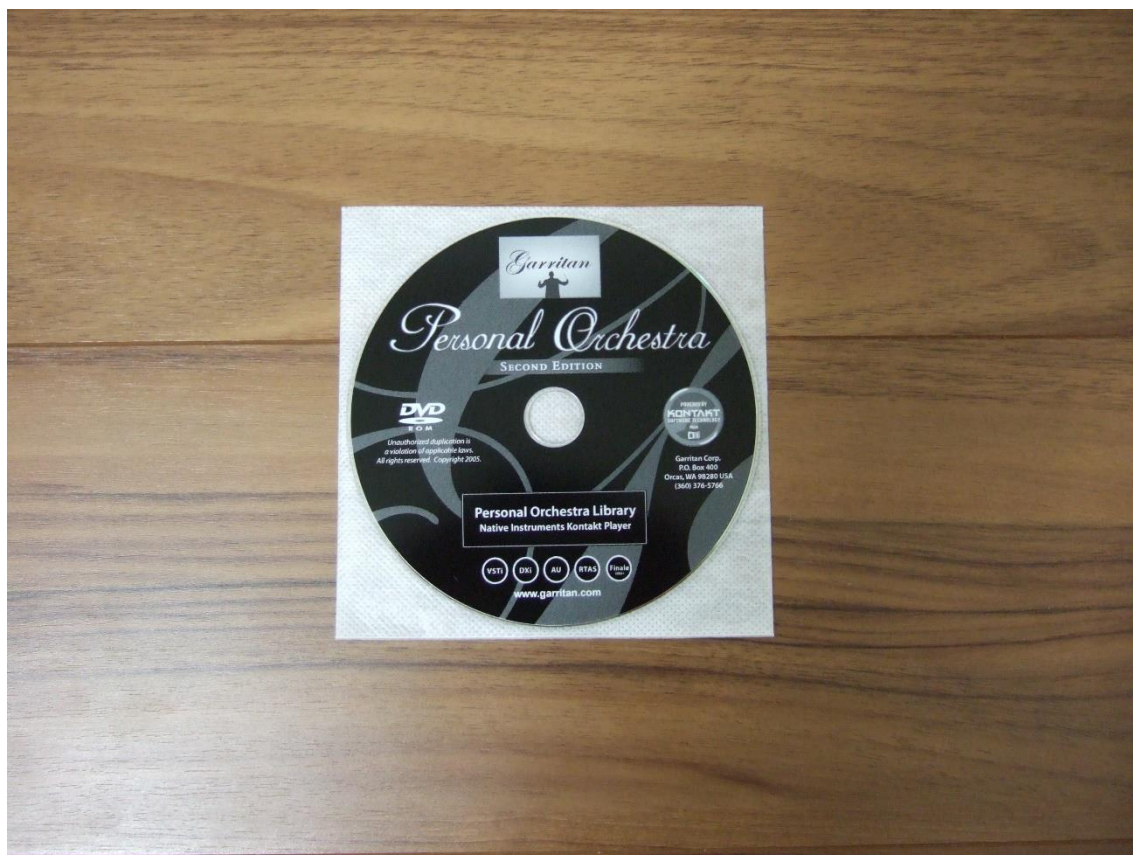
◆ Quantum Leap RA (EastWest)

世界中の民族楽器を収録したエスニック音源。付属の Kompakt (Kontakt と機能を共有) で動いた写真のバージョンは、基本的に 64bitOS で動きません。PLAY エンジンで動く後継バージョンが出ています。



◆ **Garritan Personal Orchestra (GPO) 2 (Garritan、現 MakeMusic 傘下)**

Miroslav Philharmonik のような上級オケ音源に比べれば、できることは少ないですが、動作は、同じく私が愛用した Roland の Edirol HQ Orchestral に次ぐ軽快さでした。現在は Kontakt でなく Aria Player で動作します。



◆ **Garritan Stradivari Solo Violin (Garritan)**

Garritan が誇ったヴァイオリン特化音源。ストラディバリウスのあらゆる音と奏法が収録されており、動作はこれ一つで GPO と同程度の重さでした。後継版は出ていません。Windows XP、Core 2 Duo



◆ Finale の古いバージョン (MakeMusic)

楽譜作成ソフト。写真のバージョンから Garritan の簡易版 VST が付属。のちに VST に完全対応しました。Steinberg・Cubase 愛用者には、むしろ Sibelius や Dorico の愛用者が多いようです。



以上、懐かしの DTM ソフトをご紹介しました。
ご覧いただきありがとうございました。